

平和の言葉が 紡がれるとき

池田丈佑
東北学院大学法学部

前回の 議題

「最後の一文」について
変えるか、変えないか

「宣言案の出し方」について
議会を通すか、通さないか
→通さない

宣言案

飛騨市平和都市宣言（案）

わたくしたちは、美しい山河につつまれて、豊かな歴史と伝統を誇る飛騨市民です。

わたくしたちは、命の重さと地球の尊さ、そしてそれを奪う愚かさを知っています。

しかし世界はなお、暴力と、無理解と、不平等から自由になっていません。

わたくしたちは、平和がかげがえのないものであることを確信し、

あんきで思いやりのあるまちをめざして、次のことにとりくみます。

美しい自然と豊かな歴史、伝統を守り続けます。

お互いの価値観と多様な生き方を尊重します。

誰もが安心して夢に挑めるまちを創ります。

現実を直視し、常に関心を持ち続けます。

二度と戦争をしません。

最後の 一文

変える

- 違和感がある。唐突である
- でも言い切った方が良い
- 「二度と戦争をしたくない」という気持ちをどう伝えるか
- 「望みます」「希求します」

変えない

- 違和感があるから心に残る
- だからあえて残す
- 「私たちは」を入れる
- 「平和な世界／社会を望み」を入れる

3つの案
を
出します

変えない：そのまま

変えない：が、修正もする
「平和な世界を望み、再び戦争をしません」

変える：が、修正もする
「戦争のない、平和な世界を希求します」

できた
あと
どうする

行政に頼らない、市民にも頼らない

「使う」ために「知る」
ただし、「知る」は十分条件ではない

「口」を使う
食べる、飲む、話す

「手」を使う
作る、紡ぐ

「足」を使う
訪ねる

「場」を作る
読み聞かせ、語り

「人」を作る
平和を求める
人づくり

「文化」を作る
読み聞かせ、語り

メモ